

現代経営学応用研究（イノベーションの組織マネジメント）

担当：原田 勉

## 1. 授業のテーマと目標

本講義では、イノベーションを促進するための組織マネジメントを検討課題とし、講義と実験を通じて受講生一人ひとりに組織マネジメントにあり方について学んでもらうことを目標としています。

本講義では、組織のなかでもそれを構成するグループに着目します。組織とはいくつかの小集団の集まりであり、その成果は、グループダイナミクスの有効性に大きく依存します。このグループダイナミクスの多様な側面を取り上げ、グループのメンバーとしてその成果、特にイノベーションにどのように貢献できるのかについて学んでいきます。

この講義の方法論は、**experiential learning** と呼ばれるものを採用します。クラスを5～6名から構成されるグループに分け、グループごとにトピックスに応じた多様な実験に参加してもらいます。グループワークに積極的に参加できる方の受講を歓迎いたします。毎回、出席が難しい方や出席できても15分以上遅刻することが予想される場合は、受講をご遠慮いただきたくお願いいたします。グループワークへの途中参加はできず、場合によっては授業開始後すぐにグループワークを始めることもあります。この点、ご注意願います。

なお、授業の性質上、受講者数が60名を超える場合は制限をかけさせていただきますので予めご了承ください。

## 2. 成績評価

授業での貢献、期末試験で総合的に評価する。

## 3. テキスト

拙著『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』（東洋経済新報社）

拙著『イノベーション戦略の論理—確率の経営とは何か—』（中公新書）

## 4. 講義内容とスケジュール

### 第1回 6月26日

#### Session 1 イノベーションの組織マネジメント

イノベーションの戦略とはどのようなもののでしょうか？それは通常の競争戦略や全社戦略とどのように異なるのでしょうか？ここでは、イノベーションを促進する戦略や組織のあり方について事例を踏まえながら議論していきます。

まずはイノベーション戦略、組織の枠組みを理解したうえで、グループワークに移行します。最初にグループ分けを行います。できれば MBA の他のクラスで形成されているグループとは違ったメンバーから構成される新たなグループ分けを行いたいと思います。そのうえで、チームビルディングから開始していきます。

#### 参考文献

拙著『イノベーション戦略の論理』

### Session 2 学習サイクル

グループダイナミクスは、EIAH という学習サイクルから構成されます。経営管理では PDCA サイクルが有名ですが、これとはやや異なった視点から概念化されたものになっています。このセッションでは、EIAH サイクルを解説し、そのうえで、このサイクルをクラスのなかで回していくことにします。

### 第2回 7月3日

#### Session 1 プロセス vs. コンテント

グループダイナミクスを検討する際、グループのコンテントとプロセスを分けてとらえることが重要になります。コンテントとプロセスとは何かについて解説したうえで、コンテントとプロセスに気づきながら実験を行ってもらいます。

#### Session 2 リーダーシップ

リーダーシップとはどのようなものであり、それにはいかなるタイプのものがあるのかについて学習します。ただ単にリーダーシップを知ることが目的ではなく、グループメンバーとしていかにしてリーダーシップを発揮することができるのかを実験してもらいます。

### 第3回 7月10日

#### Session 1 戦略マネジメント1

グループ課題解決を促進するための戦略マネジメントの代表的な手法について学びます。

#### Session 2 戦略マネジメント2

セッション1に引き続き、いくつかの実験を通じて戦略マネジメントの演習を行います。

参考文献

拙著『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』

#### 第4回 7月17日

##### Session 1 コンセンサス

グループでコンセンサスを得るためには何が必要なのかについて学びます。

##### Session 2 フィードバック

いままでの組織マネジメントに関する学習成果を総合的に生かすことができる実験を行います。この実験を通じて、グループ成果を高めるため自分や他のメンバーがどのような貢献ができたのか、またはどのようにすべきだったのかについて学んでいきます。

以上